事例（２） 協働のまちづくり活動を通じたＥＳＤ

御南地域はかつて田畑の広がる農業地帯でしたが、宅地開発により若い世代の人口が急増しています。しかもその多くは流動人口であり、地域の行事の担い手不足などの課題も出ています。地域には大きな川が流れ、災害時の被害が予測され、防災の必要性も急速に高まっています。このような中、地域の世代間の縦横のつながりが大切にされてきた御南学区は、ユネスコスクールに加盟し、そのつながりを生かして子どもが安心して通える学校づくりが進んでいます。また、彼ら自身が地域の活動に積極的に参加し、誰もが安心・安全に健康に暮らすことができる社会づくりをめざすＥＳＤが活発です。

例えば、地域の公園を市民の手でつくる有志の会があります。一人ひとりが公園でやってみたいことを話し合い、実現に向けてチャレンジしていくという会です。その中でも「スープ」というイベントでは、幼児から高齢者まで多くの人が参加しています。これは単発のイベントではなく、中学生がESDのボランティアとして参加し、皆で育てて収穫した野菜でスープを作ります。やりがいがあるだけでなく、電気も水も十分にない場所で作業し、多様な世代がコミュニケーションを取って協力することは、災害時の状況を想定した防災教育としても役立っています。同時に開催するマルシェでは環境・健康に配慮した農業や食に取り組む事業者が出店し、皆が持続可能性への関心を高める契機となっています。

また、「地域をあげてこどもを育てる」を合言葉に、公民館でワークショップが開催され、多様な人々が地域の課題について学びあっています。

中学校では、以前より地域のボランティアが学習支援や花壇の手入れを行い、生徒は子ども達を対象とした遊びの会を企画運営するなど、数多くのボランティアに主体的に取り組んでいます。最近では「土曜講座」が開設され、多様な大人が先生となり活躍するなど、“ボランティアの環（わ）”が生まれています。

未来志向 Ａ２「持続可能な社会づくり」の文化の形成

学校・公民館・企業からしっかりとＥＳＤ/ＳＤＧｓのメッセージが発信されています。

目的志向 Ｄ２「ESD の学習と実践の往還」

ＥＳＤ/ＳＤＧｓの研修や会合に加えて、全学校園・公民館・福祉施設が参加するコンサートなど、協働実践の場があり、様々な人のエンパワーメントにつながっています。

協働志向 Ｅ２「多様な人・団体の間の信頼関係」

趣味や志を持つ人どうしが協働する中で、やりがいと信頼が自然に育まれています。

こうした事例から、未来のビジョン、活動の目的、そして人々の協働の価値を明確に活動に据えることが、地域コミュニティでのＥＳＤの普及・発展の秘訣であることが分かります。

この手引きについて

岡山市は「国連ＥＳＤの10年」（2004-2015年）の取り組みをもとに、ＥＳＤに関するユネスコ世界会議（2014年）において、学校・公民館・地域住民の協働によるＥＳＤの推進を「ＥＳＤ岡山モデル」として発信しました。そして現在も、このモデルに基づいたＥＳＤ活動を展開しています。

「ＥＳＤ岡山モデル」を新たな地域でのＥＳＤ活動に生かすには、先行事例の分析と整理に基づいた活動の評価指標が求められます。この評価指標を参考にしながら、ＥＳＤ活動を構想、実践、評価、そしてフィードバックすることで、活動の深まりや広がりが期待できます。

この手引きは、以上を踏まえて作成されたＥＳＤ活動の評価指標です。従来のＥＳＤ活動を評価・改善したり、あるいは、今後取り組むＥＳＤ活動の目標を定めたりする際に、この手引きを活用いただくことを願っています。

評価指標について

ＥＳＤ岡山モデルの目的は、地域コミュニティでのＥＳＤの普及・発展です。そのためには、ＥＳＤ活動における「未来」「目的」「協働」の3つの“志向”（ＥＳＤ活動の意志や意識の方向性）を評価するのが良いでしょう。それぞれの志向には“評価基準”と“評価サブ基準”があります。そして評価サブ基準は、具体的な評価項目を複数含んでいます（手引きを開いてご覧ください）。

志向	評価基準	評価サブ基準
未来志向	Ａ ビジョン	A1 ESD活動の目的の明確化
		A2「持続可能な社会づくり」の文化の形成
	Ｂ 発展性	B1 ESD活動を継続するための体制
		B2 ESD活動による次世代の担い手育成の仕組み
目的志向	Ｃ 統合	C1 相互関連の視点
		C2 課題解決の視点
	Ｄ エンパワーメント	D1 ESDの学習の特長
		D2 ESDの学習と実践の往還
協働志向	Ｅ 協働	E1 多様な人・団体の参加、連携、協力
		E2 多様な人・団体の間の信頼関係

例えば、ある活動の“未来志向”を評価するには、その基準である“ビジョン”と“発展性”に注目します。そしてこれらの基準に含まれる複数の評価項目（例えば、「持続可能な社会づくり」に向けた教育目標を明確にしている）を用いて、活動を評価します。評価の到達度が高い場合はその継続を、低い場合はその向上をめざすと良いでしょう。

手引きでは、３つの志向が備わったＥＳＤ活動の事例を取り上げています。ぜひ参考にしていただければと思います。

企画制作：岡山大学（柴川弘子、山田一隆、藤井浩樹）
発　　行：岡山ＥＳＤ推進協議会
発 行 日：令和２年３月31日

岡山発

地域で進める ＥＳＤの手引き

岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

事例（１） 地域の未来を一緒に考える活動

建部地域で始まった「たけべ部」の活動を紹介します。建部地域は山と川に囲まれ、豊かな自然に恵まれていますが、過疎化が深刻です。建部中学校区はユネスコスクールに加盟しており、地域と連携しながら地道にＥＳＤに取り組んでいます。しかし、2007年に地元の高校が廃校になりました。1学年1クラスのみの中学校の生徒たちは、卒業すると遠い高校へ通い、就職口の少ない町へ戻ってくる可能性はますます低くなっています。そのような中で、新しいＥＳＤ活動が地域で立ち上がっています。

それは「たけべ部」と呼ばれる活動で、建部の中学生が様々な大人との関わる中で、今の自分自身や未来の自分、そして未来の地域について考え行動できる場を生み出そうというものです。

有志の大人の提案から始まりましたが、未来を担う若者に「ふるさとに誇りを持って欲しい」という思いで、公民館を拠点に、中学校やＮＰＯなど複数の団体からなる「たけべ部実行委員会」が生まれ、その活動を支えたり地域に発信したりしています。

今では中学生のメンバーも増え、10年後の未来の地域のビジョンを描くためにミーティングを開催しています。その中で、地域の魅力を発信し、地域の内外の方の交流と学びの場を作りたい、という「たけベマルシェ」の実行委員の方の話を聞いて、中学生も地元野菜を使ったカレーを販売することになりました。200食を完売し、売上げを地域で活動する団体へ寄付することができました。

さらに、文化財でもある駅舎を皆で清掃し、地元のカフェの経営者を巻き込みながら、ミーティングで提案された具体的なビジョン（「駅舎を素敵にしたい！」）の実現に向けた動きが継続しています。まちの玄関口でもある駅舎を魅力的な場所にしていくことで、地域への関心や活動のモデルが生まれるのではないかと期待されます。

未来志向 Ａ１「ESD 活動の目的の明確化」

中学生の故郷への愛着を育むという目的や、駅舎を発展させるという目的が地域と共有されています。

未来志向 Ｂ２「ESD 活動による次世代の担い手育成の仕組み」

大人だけでなく中学生が主体的・継続的に活動できるように、場所や雰囲気づくりが工夫されています。

目的志向 Ｃ２「課題解決の視点」

過疎化や若年人口の流出という課題について、中学生の地域活動を起点とした解決方策が模索されています。

ＥＳＤ活動推進のための評価指標　ダイジェスト版

＊学習者＝児童・生徒・公民館利用者　＊教育者＝教員・社会教育指導主事

志向	評価基準	評価サブ基準	指標	評価項目
未来志向 「次世代につなごうとしているか」	A ビジョン	A1 ＥＳＤ活動の目的の明確化	インプット	「持続可能な社会づくり」に向けた中長期的な学校・公民館のビジョン（将来像）を示している。
				「持続可能な社会づくり」にとっての問題や課題を学校・公民館として捉えている。
				「持続可能な社会づくり」に向けた教育目標を明確にしている。
			アウトプット	教員・職員研修を実施し、ＥＳＤ活動の目的を明確にし、共有している。
				他校・他施設や保護者・地域住民との合同研修を実施し、ＥＳＤ活動の目的を明確にし、共有している。
			アウトカム	「持続可能な社会づくり」に向けた「新しい学びをつくる」という目的意識を持っている。
				「持続可能な社会づくり」に向けた「地域・世界を支える人をつくる」という目的意識を持っている。
		A2 「持続可能な社会づくり」の文化の形成	インプット	学習者・教育者が「持続可能な社会づくり」についての信念や価値観を振り返っている。
			アウトプット	学習者・教育者が「持続可能な社会づくり」に果たす自分の役割を捉えている。
			アウトカム	学校・公民館内で「持続可能な社会づくり」の文化が形成されている。
				学校・公民館のある地域で「持続可能な社会づくり」の文化が形成されている。
	B 発展性	B1 ＥＳＤ活動を継続するための体制	インプット	ＥＳＤ活動を総括的に評価し、改善するための仕組みがある。
				ＥＳＤ活動のプロセスを評価し、適宜改善するための仕組みがある。
				ＥＳＤ活動を継続するための組織と予算を準備している。
			アウトプット	アンケート調査等によってＥＳＤ活動を総括的に評価し、次に生かす取り組みを行っている。
				面談等によってＥＳＤ活動を形成的に評価し、次に生かす取り組みを行っている。
				ＥＳＤ活動を継続するための組織と予算は有効である。
			アウトカム	ＥＳＤ活動を続けたいという気持ちを持っている。
				ＥＳＤ活動により、教育者同士の良い関係ができている。
		B2 ＥＳＤ活動による次世代の担い手育成の仕組み	インプット	ＥＳＤ活動において、学習者の創造的な取り組みを促している。
				ＥＳＤ活動において、異年齢集団が交流している。
				ＥＳＤ活動の成果を学習者が発信している。
			アウトプット	ＥＳＤ活動において、学習者の創造的な取り組みが生まれている。
				学習者が異年齢集団との交流を意義あるものと捉えている。
				発信したＥＳＤ活動の成果に対する反響を学習者にフィードバックしている。
			アウトカム	学習者が学校や公民館に対する愛着を感じている。
				学習者が地域に貢献したいという気持ちを持っている。
目的志向 「どう向き合っているか」	C 統　合	C1 相互関連の視点	インプット	ＥＳＤ活動において、環境・経済・社会の複数の視点を学習に取り入れている。
				ＥＳＤ活動において、様々なレベル（土着、地域、国、世界）の文化の視点を学習に取り入れている。
				ＥＳＤ活動において、教科・領域等の横断的な学習を取り入れている。
			アウトプット	学習者が環境・経済・社会の相互関連とその複雑さを理解している。
				学習者が様々なレベル（土着、地域、国、世界）の文化の相互関連とその複雑さを理解している。
			アウトカム	学習者に「持続可能な社会づくり」に必要な価値観（多様性の尊重、環境の尊重等）が育っている。
		C2 課題解決の視点	インプット	ＥＳＤ活動において、地域課題を解決するという視点を学習に取り入れている。
				ＥＳＤ活動において、グローバルに考え、ローカルに行動するという視点を学習に取り入れている。
			アウトプット	学習者が、学習が地域課題の解決につながるということを理解している。
				学習者がグローバルに考え、ローカルに行動することを意識している。
			アウトカム	学習者に課題発見、問題解決の姿勢が身についている。
				学習者が生活上の課題を地域の課題として捉えている。
	D エンパワーメント	D1 ＥＳＤの学習の特長	インプット	ＥＳＤ活動において、自分との関連（自分事）を意識した学習を取り入れている。
				ＥＳＤ活動において、学び合いの学習を取り入れている。
			アウトプット	学習課題に対して、学習者・教育者が自分との関連（自分事）を意識している。
				学習者・教育者に未来構成力、システム思考力、批判的思考力等の資質・能力が身についている。
				学習者・教育者に他者との対話が増え、コミュニケーション能力が身についている。
			アウトカム	学習者・教育者が学校生活・社会生活および仕事に対して喜びや楽しさを感じている。
				学習者・教育者に物事の本質を見る目が育っている。
				学習者・教育者に他者を尊重し、協働する態度が育っている。
		D2 ＥＳＤの学習と実践の往還	インプット	ＥＳＤ活動において、参加・体験型の学習を取り入れている。
				ＥＳＤ活動において、地域とかかわる学習を取り入れている。
				ＥＳＤ活動において、「持続可能な社会づくり」に向けた行動を促す学習を進めている。
			アウトプット	学習者・教育者が学習に参加しているという意識を持っている。
				学習者・教育者が学習を通して地域とかかわっていると感じている。
				学習者・教育者が「持続可能な社会づくり」に向けた自分の行動の変化を感じている。
			アウトカム	学習者・教育者が自分の成長を感じ、自尊感情を抱いている。
				地域とかかわることで、学習者・教育者の将来の社会に対する考え方が変化している。
				学習者・教育者が「持続可能な社会づくり」のために自分ができることを実践している。
協働志向 「人と人がつながっているか」	E 協　働	E1 多様なステークホルダー（人や団体）の参加、連携、協力	インプット	ＥＳＤ活動について、学校運営協議会等で学校・公民館などと地域住民とが意見交換を行っている。
				ＥＳＤ活動について、専門性を有する機関や団体と協議している。
			アウトプット	ＥＳＤ活動において、公民館や地域住民が学校を支援している。
				ＥＳＤ活動において、専門性を有する機関や団体と協働している。
			アウトカム	ＥＳＤ活動全体において、保護者・公民館や地域住民が学校と協働している。
				専門性を有する機関や団体との間で相乗効果が見られる。
		E2 多様なステークホルダー（人や団体）の間の信頼関係	インプット	ＥＳＤ活動により、学校・公民館と保護者・地域住民とのつながりが生まれる取り組みを展開している。
				ＥＳＤ活動により、専門性を有する機関や団体とのつながりが生まれる取り組みを展開している。
			アウトプット	保護者や地域住民が学校・公民館を信頼している。
				専門性を有する機関や団体が学校・公民館を信頼している。
			アウトカム	地域課題の解決において、保護者や地域住民と学校・公民館がお互いに対する期待がある。
				多様なステークホルダーを尊重した合意形成・意思決定が行われている。

より詳細な学校教育用、社会教育用それぞれの評価指標シートは、岡山市ＳＤＧｓ・ＥＳＤ推進課のウェブサイトよりダウンロードできます。